

## 平成29年度 第2回 大学運営連絡会議事要旨

日 時 平成29年5月16日(火) 10時30分～12時07分

場 所 大学本部2階大会議室

出席者 学長，滝澤理事，門出理事，後藤理事，和田理事，佐々木監事，田中教育学部長，小坂芸術地域デザイン学部長，中村経済学部長，原医学部長，渡工学系研究科長，有馬農学部長，山下附属病院長，皆本全学教育機構副機構長，米山附属図書館長，郭シンクロトロン光応用研究センター長

欠席者 なし

陪席者 北村監事，兒玉学長補佐，鈴木学長補佐，田中学長補佐，寺本学長補佐，岩本学長補佐，倉岡学長補佐，只木学長補佐，宮脇学長補佐，吉永学長補佐，西郡IR室長，総合情報基盤センター長，永田海洋エネルギー研究センター長，三島低平地沿岸海域研究センター副センター長（荒木センター長代理），宮武地域学歴史文化研究センター長

○ 学長から，平成28年度第10回及び第11回大学運営連絡会議事要旨の確認依頼があった。

### 【 報告・連絡事項 】

#### (1) 標的型攻撃メール訓練の実施結果について

松前総合情報基盤センター長から，平成29年3月13日に実施された標的型攻撃メール訓練の実施結果について報告があった。開封率をゼロにすることは非常に難しいため，重要情報の管理や，攻撃を受けた後の対応策の検討が必要である旨，継続的に訓練を実施し，標的型攻撃メールへの耐性を維持・向上させていくことが必要である旨の発言があった。

#### (2) <sup>エデュローム</sup>eduroramの利用案内について

松前総合情報基盤センター長から，佐賀大学は平成29年4月よりeduroramの参加組織となり，本学の構成員（教職員，学生）がeduroram参加組織を訪問した際，訪問先で無線LANの利用が可能となった

旨、また、e d u r o a m参加組織所属の方が、佐賀大学にて無線LANの利用が可能となった旨の報告があった。

皆本全学教育機構副機構長から、学内教職員への周知方法について確認があり、松前総合情報基盤センター長から、現在、総合情報基盤センターホームページで通知しており、今後、ポスター等の掲示を予定している旨の発言があった。

渡工学系研究科長から、e d u r o a mを使用できる学外の場所について確認があり、松前総合情報基盤センター長から、e d u r o a mへの参加を表明している機関の一覧はあるが、実際に運用が開始されているかは不明である旨の説明があった。次いで、只木学長補佐から、無線をONにした状態で、「e d u r o a m」が表示されている場所で使用可能であり、学内では「o p e n g a t e」が使用可能な範囲において、e d u r o a mを使用可能である旨の発言があった。

### (3) 内部統制システムの運用について

和田理事から、本法人の内部統制システムの体制整備に伴い、国立大学法人佐賀大学における業務の適正を確保するための体制等について（平成27年3月26日付け役員会決定）を一部改正した旨の報告があった。また、本法人において適切な内部統制が行われているか確認するため、総務省通知において内部統制の基本要素を構築する各種措置等として示された項目をモニタリングするため、部局等への照会、ヒアリング等に協力いただくよう発言があった。

### (4) 「外部研究資金のオーバーヘッドについて」の運用について

財務課長から、本件について、平成16年4月20日役員会承認の「外部研究資金のオーバーヘッドについて」の運用において、10万円以下の寄附金は、特例措置としてオーバーヘッドの適用除外としていたが、同一年度内に同一の者から同一目的の寄附が複数回あり、該当年度内の合計額が10万円を超える場合は、オーバーヘッドの対象とするよう取扱を変更する旨の説明があった。

山下附属病院長から、寄附金の減少が危惧されること、論文の減少等も考えられるため、特定機能病院の承認要件への影響が懸念されることから、間接経費の支援をお願いしたい旨の発言があった。

門出理事から、外部資金について調査したところ、同一の者から同一目的で10万円が繰り返し寄附されている事案があり、特例措置により不公平が生じている旨、また、事務処理が煩雑である旨の発言があった。特定機能病院の承認要件である論文の減少への影響が懸念されているが、インセンティブ手当も支給されていること、論文の査読支援、研究助成により活性化することで理解いただきたい旨の発言があった。

(5) 中長期的な学生獲得方策について

入試課長から、4月19日の拡大役員懇談会における「18歳人口の減少が加速する時代を見据えた学生獲得について」のディスカッションの概要について報告があった。マーケティングに詳しい受験産業の広告代理店から、現状及び効果的な取組み等について、各学部長等に御案内する機会を設ける予定である旨の発言があった。

学長から、2018年問題を目前に控え、志願者確保へ努力する必要があるため、今回提案された内容を各学部を持ち帰り、検討いただきたい旨の発言があった。

(6) 佐賀大学の高大接続改革への取り組みについて

入試課長から、本件について、平成29年6月18日(日)開催の「教師へのとびら」, 「科学へのとびら」プログラムについて案内があった。

「とびらプロジェクト」について、大学として一貫性のあるカリキュラムを構築する必要があるため、今後、開発・実施予定の学部にあつては、先行事例である両プログラムを参考に、プログラムの内容を検討いただきたい旨の発言があった。

また、「教師へのとびら」受講者(平成29年3月修了者)の進路状況について報告があった。

学長から、3年間のプログラムであるため、ステップアップする工夫が必要である旨、本学の志願者を増やすという意気込みを持ってプログラム内容を学部で議論いただきたい旨、農学部におけるプログラムについて、今後、第1次産業が必要になる時代であるため、農学部の特性を生かしたものにすることが必要である旨、「医療人へのとびら」について、どのような人材が必要か突き詰め、内容を検討していただきたい旨の発言があった。

只木学長補佐から、第3期中期目標・計画において、戦略性が高く意欲的な取組みとされているため、どのような成果を目指した活動であるか整理していただきたい旨の発言があった。

学長から、ポテンシャルが落ちない工夫を盛り込み、プログラムの途中で、悩んで離れていくのではなく、3年かけて進路を固めることができるものにしていただきたい旨の発言があった。

小坂芸術地域デザイン学部長から、芸術地域デザイン学部において、高校生を対象とした単発的なプログラムを開催しているが、受講した学生が本学の入学試験を受験した際の問題について発言があった。とびらプロジェクトを受講した佐賀大学志願者が増えるほど、とびらプロジェクトを受講したにも関わらず、佐賀大学に不合格となる学生が生じるが、どのような考えか確認があり、西郡IR室長から、現在、「佐賀大学を受験するためのプログラムではない」ことを前提として開催しているため、具体的な対応はしていないが、今後、佐賀大学を目指した学生が受講するプログラムを開発するのであれば、仕組みを考える必要がある旨の発言があった。

- (7) 平成28年度就職状況について（平成29年5月1日現在）  
就職支援課長から、本件について、昨年度同時期での比較説明があり、学部で0.6ポイント増、大学院で±0ポイント、総計0.4ポイント増、地元就職率は4.3ポイント増であった旨の説明があった。
- (8) 平成29年度監事監査計画について  
佐々木監事から、本件について、監査の基本方針、実施項目及び重点事項等について説明があった。
- (9) その他  
門出理事から、科学研究費の審査結果について、概況の報告があった。

**【 各学部等からの報告・連絡事項 】**

- (1) 活動現況等について月例報告  
各学部等から報告があった。
- (2) その他  
特になし。

**【 その他 】**

特になし。

以 上